

# 情報公開について

徳島工業短期大学

## 1. 学校法人の概要

### ①建学の精神・理念

#### [建学の精神・理念]

本学の建学の精神は、「人づくり」である。教育理念は、「建学の精神に則り、品性の向上を図り、自発的に社会に貢献できる人間性を養い、技術革新が著しい自動車産業界になくてはならない人材を育成する。」ことである。その意味するところは、人間性を基盤にした自動車産業界に有為な人材育成にある。

本学は、学祖 近藤安次郎(1894年～1990年)により国家及び社会に貢献できる人間の育成と、時代に適応した専門技術者の養成を目指して昭和48年(1973年)に設立した。本学の母体として、近藤安次郎が昭和18年(1943年)に設立した徳島工科大学、昭和26年(1951年)に設立した徳島城南工業高等学校がある。両校とも、建学の精神及び教育理念を人づくりと技術をとおした社会貢献ができる人材の育成としており、これらの精神を受け継いでいると言える。

建学の精神及び教育の理念は、学祖の教育哲学を項目別に列挙した学園訓として本館正面玄関に掲げている。この人づくりの教育を本学の建学の精神として位置づけ、本学の教育目的の精神的支柱としている。

#### [将来に向けてのビジョン]

学生、保護者、高校、さらに自動車販売整備会社及び自動車関連業界にとって魅力ある大学づくりを構想することである。自動車工学を専門とする本学の使命は、まさに、ハイブリッドカー、電気自動車などのこれからの時代が要請する新技術に対応できる知識・技能及びお客様とのコミュニケーション能力が優れた学生を育てることに尽きると言える。

40年間の先達の苦勞と知恵を思い、もう一度創業期の精神に立ち四国で唯一の工業系短期大学として安定的な入学者を確保して、21世紀の自動車整備業界及び習得した知識を生かして関連分野に貢献できる人材育成をはかることが最大の目標でありビジョンである。

### ②沿革

昭和18年 3月	徳島工科大学(各種学校)として徳島県知事から設立認可される。
昭和24年 7月	徳島城南工業高等学校の設置を徳島県知事から認可される。
昭和26年 3月	学校法人として徳島県知事から認可される。
昭和48年 3月	徳島工業短期大学自動車工業学科(入学定員80名)を文部大臣から認可される。
昭和52年 4月	校地を徳島市南昭和町から板野郡板野町に移転する。
平成2年 12月	自動車工業学科臨時定員増を文部科学大臣から認可される。 (80人→140人、平成11年度入学生まで)
平成12年 4月	自動車工業学科臨時定員の廃止に伴う定員の変更(入学定員110名)、専攻科車体整備工学専攻(定員10名)の設置を文部科学大臣から認可される。
平成17年 4月	専攻科車体整備工学専攻の定員を20名に変更する。
平成21年 4月	専攻科自動車工学専攻(定員5名)を設置する。
平成22年 4月	自動車工業学科入学定員を80名に変更する。

### ③設置学校等

理事長 近藤孝造

徳島工業短期大学

所在地 徳島県板野郡板野町犬伏字蓮花谷100番地

学 長 山本哲彦

#### ④役員及び教職員に関する情報

学校法人徳島城南学園			徳島工業短期大学		合計
役員	理事	6名	教員	21名	21名
	評議員	14名	職員	7名	7名
	監事	2名			

## 2. 事業の概要

### (1) 当該年度の主な事業の概要

#### ① 主な事業の目的・計画

平成 23 年度入学予定者が大幅に減少した。次年度以降、入学定員確保を重点目標とし、大学の持続的発展のために万全を期す。

#### 建学の精神

人づくりの一環として、3年計画の最終年として挨拶、マナーを重点に学生指導を行いたい。挨拶については、授業前後の礼、学生と朝会った時などの挨拶の励行、マナーについては、研究室への出入り時、職員との言葉づかい、交通指導、喫煙指導などが挙げられる。

#### 教育研究の充実

- 1 ハイブリッドカー（HV）に焦点を当てた実習科目を設置する。
- 2 学生の学習意欲を高めるため、引き続き実習車両の更新を実施し、展示用教材の充実を図る。
- 3 第二種電気工事士資格取得に向けた科目を設置する。
- 4 新たに学生研修旅行を実施する。
- 5 専攻科車体整備工学専攻の塗装分野について、環境にやさしい最新塗料を使った実習を導入する。
- 6 SPOD研修等の利用を推進し、FD・SD活動を進め、教育技術・方法の向上を図る。
- 7 共同研究充実費を設け(2年目)、学科長のとりまとめにより、ポイントを絞った教育研究活動の活性化を図る。

#### 施設・設備の充実

- 1 EV実習に向け、2号館の改修を実施するとともに、平成22年度から2年度にわたって施設・設備を充実する。
- 2 専攻科車体整備工学専攻の設備（塗装）を一部更新する。

#### 学生支援の充実

- 1 昨年度までの2年連続文部科学省からの補助金を活用し、進路支援室を充実する。
- 2 家庭の経済的負担軽減のため、平成23年度から実習用工具を大学で準備することとする。
- 3 緊急雇用制度を活用し、留学生の日本語能力強化を図る。

#### 広報活動の充実

- 1 入試広報課長をリーダーとして、これまでの取り組みの強化、見直し及び新規企画を立案実施する。
- 2 早期の高校訪問（割り当て校）、訪問高校の見直し、新たな高校への出前授業、地元企業へのパンフレット・ポスター掲示依頼など多彩な広報活動を展開する。
- 3 目標を数値化し、結果を委員会で検討して職員に周知すると同時に必要な事項は、教授会または理事会に挙げる。
- 4 私立高校、自動車科卒業生、女子学生、離島出身高校生、本学卒業生の子女、社会人、大学・専門学校の卒業生などの受入促進を図るべく、奨学制度、授業料減免措置や受験制度をよりアピールする。
- 5 EVを中心とした活動については、客員教授や外部機関と連携することで本学の特色を打ち出す。

- 6 徳島県の教員研修に、昨年に続き 2 講座を提供するとともに、香川県にも提供を図る。また教員免許更新講習を実施する。

#### 高大連携

- 1 電動カートの製作と性能評価会の参加高校を拡大することをめざす。

#### 地域への貢献

- 1 地元の小学校からの社会科見学を受け入れる。また、地元住民を対象にした日常点検教室を夏休みに計画する。
- 2 板野町西部地区青少年防犯活動に参加する。
- 3 昨年とはテーマを変えてシルバーパソコン公開講座を計画する。
- 4 産官学連携分野では、e-とくしま推進財団（里美德島県副知事が理事長）に加入し、ICTに関する情報交換及び研究テーマを探る。
- 5 地域企業から要望があれば、委託試験を受け入れる。

#### 国際交流・親善の進展

- 1 中国を始めとする各国の教育機関との連携をさらに推進し、留学生入学者の増加に向け努力する。
- 2 留学生後援会活動の活発化を図り、留学生の受入・支援体制を強化する。

#### 学生の特別活動

- 1 四国EVラリーで、今年も入賞をめざす。
- 2 春・秋の献血運動に協力する。
- 3 秋の交通安全週間に、本学の交通安全協議会委員の学生を始め多くの学生が交通安全キャンペーンに参加する。

#### 自己点検・評価の推進

- 2 年間の自己点検・評価活動を報告書にまとめる。

### ②進捗状況

#### 建学の精神

- 1 挨拶については、授業前後の礼、学生と登校時から下校までの声かけなど、各教員が持ち味を発揮しながら学生とコミュニケーションを取っている。マナーについては、授業時遅刻する学生への注意、交通関連では、日々の登校時の立哨指導、春・秋の交通安全週間での通学时指導、喫煙については、入学生対象に外部講師による禁煙指導を行った。
- 2 新年度に学年別に理事長が、プリントを配布して創立者の建学の精神と日々の実践について訓話を行った。

#### 教育研究の充実

- 1 総合整備実習科目を新設し、HVの点検・整備実習及び低圧電気特別講習資格を取得できる時間も組み入れた。
- 2 学生の学習意欲を高めるため、引き続き実習車両の更新及び展示用教材を購入した。
- 3 第二種電気工事資格取得科目を設置し、学科試験合格者は実技試験に全員合格した。
- 4 一年全員対象に後学期開始前に二泊三日の研修会を実施した。自動車の技術や関連知識の習得や学生の思い出作りに役立った。
- 5 専攻科車体整備工学専攻で、最新の塗装技術を使う実習と必要な設備を導入した。
- 6 夏季に四国各地で実施された四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）主催の各種研修に、延べ9名が参加し、教育技術・方法等の向上に向け研修を行った。また、学内研修では前学期にSPOD講師派遣による「ティーチング・ポートフォリオ入門」後学期には、学内カウンセラーによる学生指導に関する研修会を実施した。
- 7 オフロード・ハイスピード・バギーの製作、ポルシェの改造型EVの製作など本学の特色を生かした共同研究をしている。また、電動スポーツバイクの試作については、全国自動車短期大学研究

発表会で廣瀬助教他 1 名で発表した。また、本学紀要には 17 件の投稿があり、例年通り学内で紀要発表会を行った。

#### 施設・設備の充実

- 1 公用車として使用していたホンダの HV 車を総合整備実習の教材として導入した。平成 22 年度のトヨタ車購入に加えて HV 教育を強化することとした。
- 2 専攻科車体整備工学専攻の塗装機器を最新の塗料に適応するため増強した。

#### 学生支援の充実

- 1 進路支援室長を始めとして職員の努力によって進路支援室を活用した結果、進路決定率は 95% であった。
- 2 平成 23 年度から学生実習用手持ち工具を大学が準備することとした。
- 3 徳島県の補助金制度を活用して、非常勤日本語教師を採用することで留学生の入学前教育を強化することができた。

#### 広報活動の充実

- 1 入試広報課長をリーダーとして、これまでの取り組みに加えて、地元企業及び卒業生の自営業者などにパンフレット・ポスターの掲示などの依頼をした。また、新たにカレンダーを製作したり新しい広告媒体に出稿した。
- 2 職員の訪問高校の見直し、新たな高校への出張授業への参加を継続して実施した。
- 3 入学者数は、昨年よりも下回る結果となった。オープンキャンパス参加者の減少が顕著なので職員会議等で広報活動の活発化を喚起し対策を練った。
- 4 新たな奨学金及び学費免除制度は適用者が若干名に過ぎなかった。来年度は抜粋した案内書を作成することにする。
- 5 EV を中心とした活動については、あすたむらんど徳島の依頼で子供向けのソーラーカーを 3 台製作して試乗体験を行った。1 月の子供安全教室には学生も派遣した。11 月のサイエンスフェアにフォークリフトを展示、説明した。また、客員教授による電気自動車 (EV) に関する特別講演を 1 年生全員と受講を希望する学年の学生に行った。
- 6 徳島県の教員研修に、「電気自動車の基礎とその普及」「自動車技能研修」2 講座を提供した。さらに、初めて香川県工業高校夏季研修の内、産業教育実技講習会「定期点検整備」「HV の整備」「FRP 製ボデー製作」分野を担当した。
- 7 プラグインハイブリッドカーのプリウス (PHV) を購入し、広報活動に活用した。

#### 高大連携

- 1 地元高校の参加により、モーターを貸与しての電動カート製作、その性能評価会を、徳島県高等学校教育研究会工業学会の後援により引き続き実施した。

#### 地域への貢献

- 1 平成 23 年度も板野西小学校児童の見学を受け入れた。また、8 月のオープンキャンパス開催時に地元住民対象にマイカーの日常点検教室を実施した。
- 2 板野町西部地区青少年防犯活動に参加した。
- 3 徳島県の主催する県民カレッジ事業にも引き続き協力し、シルバーパソコン公開講座を実施した。
- 4 産官学連携分野では、e-とくしま推進財団に加入し、ICT に関する情報交換をした。
- 5 本学設備を活用して、地域企業からの委託試験を受入、実施した。
- 6 鳴門商工会議所青年部からの依頼で、コンバージョン EV の研究製作に関して、講師の派遣や EV の試乗提供を行った。

#### 国際交流・親善の進展

- 1 原発事故以降、中国の大学との提携関係の推進は頓挫している。
- 2 平成 24 年度入学者として、留学生 7 名 (中国 5 名、ミャンマー 1 名、マレーシア 1 名) 新たに迎えることになった。

- ア 本学留学希望者に対する日本語教育を Skype で毎週実施した。
  - イ 入学前教育として、専門の日本語教師（非常勤講師）を採用して特に会話力が弱い留学生対象に 2 週間の日本語基礎講座（合計 2 単位認定）を行った。しかし、十分な時間ではないと判断し平成 24 年度入学者から 4 単位に強化する。
  - ウ 新入生のオリエンテーションの日数を増やして説明に時間をかけた。
- 3 海外に派遣した留学生はなかった。

#### 学生の特例活動

- 1 電気自動車の活動は、四国EVラリーでは 10 年連続部門優勝を飾った。
- 2 春・秋の献血運動に協力した。
- 3 秋の交通安全週間に、本学交通安全協議会委員の学生を始め多くの学生が、地元交通安全父母の会・板野警察署とともに近所の県道にて、交通安全キャンペーンに参加した。

#### 自己点検・評価の推進

- 1 引き続き、学生アンケートを実施し、その結果に対し全教員が各自の授業について評価を行い、授業の改善に努めている。
- 2 公開授業を行い、教育職員延べ 37 名が他の担当者の授業を参観した。
- 3 平成 21～22 年度報告書の発刊は準備を進めてきたが間に合わなかった。平成 24 年度早期に短期大学基準協会の策定した新基準の項目に則り、発刊を目指している。

#### 同窓会

地区同窓会として、平成 23 年度は近畿地区同窓会を開催し、旧交を温めた。

### (2) 教育研究の概要

#### ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学科	課程等
徳島工業短期大学	自動車工業学科	
	専攻科	自動車工学専攻
		自動車車体整備工学専攻

#### ② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

##### 1 教員組織及び専任教員数 (平成 24 年 5 月 1 日現在)

学科名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
自動車工業学科	7	5	6	2	20	9 (3)	—	1	0	全員 男性
(小計)	7	5	6	2	20	—	—	1	0	
〔ロ〕	0	0	0	0	0	—	3 (1)	0	0	
(合計)	7	5	6	2	20	9 (3)	3 (1)	1	0	

##### 2 専任教員の年齢構成表 (年齢は平成 24 年 5 月 1 日現在)

教員数	年齢ごとの専任教員数 (助教以上)							助手等の平均年齢
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢	
合計人数 (20 人)	1	9	7	0	3	0	57	64

割合 (%)	5	45	35	0	15	0	—	—
--------	---	----	----	---	----	---	---	---

### 3 専任、兼担および非常勤の別

大 学 等	学 科	教 員 数	専任教員：非常勤教員	専任教員一人当たり学生数
徳島工業短期大学	自動車工業学科	20名（専任） 8名（非常勤）	5：2	5.10
	車体整備工学専攻	9名（兼担） 5名（非常勤）	1.8：1	1.33
	自動車工学専攻	16名（兼担） 5名（非常勤）	3.2：1	0.38

### 4 教員の保有学位、業績に関する情報

教員名	学 位	研究業績			その他主な業績・資格
		題 名	副 題	発表・掲載	
山本哲彦	工学博士	PSO と GA で最適化したニューラルネットワークによる四輪車両制御系の比較		徳島工業短期大学紀要第 16 刊	琉球大学知能情報専攻学位審査
		留学生入学前日本語教育（その 2）	留学生に対する技術日本語教育		
近藤孝造	教育学修士	留学生入学前日本語教育（その 1）	基礎日本語の整理と応用への試み	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	
島田 清	工学博士	ソーラーカーの製作（その 2）	製作及び組立	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	徳島大学工学部非常勤講師、国内 A 級ライセンス
		オフロード・ハイスピード・バギー試作報告（その 5）			
		FRP 教材の作製			
伊東勝之	学士	数学基礎の少人数個別教育の効果検証		徳島工業短期大学紀要第 16 刊	二級自動車整備士
山西康弘	学士				徳島文理大学理工学部非常勤講師

岩瀬一裕	工学修士	電気回路の故障診断装置の製作と回路の動作について		徳島工業短期大学紀要第 16 刊	
宮城勢治	工学博士	水中放電で発生する衝撃波の収束過程の光学的可視化		平成 23 年度卒業研究論文 (阿南高専制御情報工学科)	阿南高専名誉教授 一級工業教員免許状 日本航空宇宙学会関西支部幹事 平成 24 年 4 月 1 日着任
伊丹隆徳		自動変速機故障再現装置の試作		徳島工業短期大学紀要第 16 刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士
		留学生入学前日本語教育 (その 2)	留学生に対する技術日本語教育		
遠藤春雄		授業用教材の製作	電動パワーステアリングの作動装置 (その 1)	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士
村上和義	学士	インジェクションポンプの特性Ⅱ	不均率について	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	一級小型自動車整備士、二級自動車整備士、高等学校工業自動車技能研修会講師 (徳島県)
吉田愛二	学士	学生実験の必要性について	タイヤ空気圧と電気負荷の影響による走行燃費	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士
		教材用電気自動車ポルシェ EV (その 2)			
前田 剛	学士	学生実験の必要性について	タイヤ空気圧と電気負荷の影響による走行燃費	徳島工業短期大学紀要第 16 刊	
平野一正		電動スポーツバイクの試作 (その 2)	バイクの電動コンバート化についての研究	徳島工業短期大学紀要第 16 刊 全国自動車短期大学協会自動車整備技術に関する研究報告誌第 40 号	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士、クレーン特別教育



多田好宏		教材用電気自動車ポルシェ EV (その2)		徳島工業短期大学紀要第16刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士、低圧電気取扱作業者講習会講師(愛媛県自動車車体整備協同組合)、県教員10年研修講師(徳島県)、クレーン特別教育
花野裕二		教育用アライメント教材の試作4	出張授業用教材	徳島工業短期大学紀要第16刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士、高等学校工業自動車技能研修会講師(徳島県)
近藤嘉宏		ソーラーカーの製作(その2)	製作及び組立	徳島工業短期大学紀要第16刊	二級自動車整備士、アーク溶接実技講習講師
		自動車のレストアとカスタマイズ	昭和53年コロナマークII		
		留学生入学前日本語教育(その2)	留学生に対する技術日本語教育		
福栄堅治		ソーラーカーの製作(その2)	製作及び組立	徳島工業短期大学紀要第16刊	一級自動車整備士指導員、二級自動車整備士
助道永次		教材用電気自動車ポルシェ EV (その2)		徳島工業短期大学紀要第16刊	一級小型自動車整備士、二級自動車整備士、高等学校工業自動車技能研修会講師(徳島県)、自動車検査員資格
		オフロード・ハイスピード・バギー試作報告(その5)			
廣瀬博文	学士	電動スポーツバイクの試作(その2)	バイクの電動コンバート化についての研究	徳島工業短期大学紀要第16刊 全国自動車短期大学協会自動車整備技術に関する研究報告誌第40号	一級小型自動車整備士、二級自動車整備士、県教員10年研修講師(徳島県)、職業訓練指導員資格
櫛田直人		ブレーキ反応速度測定装置の試作報告	製作報告と運用について	徳島工業短期大学紀要第16刊	一級小型自動車整備士、二級自動車整備士

	自動車のレストアとカスタマイズ	昭和 53 年コロナマーク II	
--	-----------------	------------------	--

① 学生に関する情報

大学等	学科	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
徳島工業短期大学	自動車工業学科	【入学に関する基本的な方針】自動車整備士資格（二級）の取得を目指したい人、自動車に関する知識・技術を基に、大学で身に付けた教養を生かし社会で活躍したい人を受け入れる。				
		49名 (内社会人1名)	160名	102名 (内社会人3名)	67名	16名
	専攻科車体整備工学専攻	【入学に関する基本的な方針】自動車整備士資格（車体）の取得を目指したい人、自動車に関する知識・技術を基に、大学で身に付けた教養を生かし社会で活躍したい人を受け入れる。				
		12名	20名	12名	9名	0名
	専攻科自動車工学専攻	【入学に関する基本的な方針】自動車整備士資格（一級）の取得を目指したい人、自動車に関する知識・技術を基に、大学で身に付けた教養を生かし社会で活躍したい人を受け入れる。				
		2名	10名	6名	1名	0名

【就職者数及び卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】

自動車工業学科 39名、車体整備工学専攻 8名、自動車工学専攻 1名

就職先等（平成 24 年 3 月 31 日現在） \*順不同

(株)ホンダカーズ徳島、(株)徳島ダイハツモーターズ、オリジナルワークショップフェイト、共栄樹脂(株)、多川自動車(有)、(有)高木製作所、(株)ニシテック、(株)林自動車、(有)ロータス中央、徳島日産自動車(株)、(株)アークメタル、東四国ジェームス、(株)きんしば、(株)徳島マツダ、阿波製紙(株)、(有)梅田燃料、中央自動車(株)、(有)マズダ自動車、四国 TCM(株)、(有)阿波ボーリング工業、協業組合徳島自動車(JSK)、山西自動車、フォルクスワーゲン徳島マエダ産業(株)、(有)大石自動車、(有)阿部鋳金、拓伸自動車、徳島三菱自動車販売(株)、(株)双葉自動車、(有)松浦自動車、兵庫トヨタ自動車(株)、(株)スズキ二輪、広島スバル(株)（中国四国スバル販売会社グループ）、浦車体整備工場(有)、トヨタカローラ徳島(株)、イエローハット高知、(有)ボデーショップ平松、(株)定光鋳金、(有)福万ボディー、(株)ハヤシ、徳島トヨペット(株)

④教育課程に関する情報

本学の「教育課程の編成・実施に関する方針」は以下のとおりである。

「高度化、複雑化する自動車技術の進展に対応できる専門知識と幅広い教養を有する人材を育成し、国家資格『二級自動車整備士・一級自動車整備士・車体整備士』の資格取得を目標にすると共に、多方面の分野にも進出できるようカリキュラム（教育課程）を編成する。」

この方針の下、編成した開講授業科目表とシラバスを次に示す。併せて、進路別の履修モデルを示す。

1 開講授業科目表 ※目次欄の PDF データをご覧ください。

自動車工業学科

専攻科車体整備工学専攻  
 専攻科自動車工学専攻

2 シラバス ※目次欄の PDF データをご覧ください。

自動車工業学科

1 年（前期・全期・後期）

2 年（前期・全期・後期）

履修モデル

専攻科車体整備工学専攻（前期・全期・後期）

専攻科自動車工学専攻

1 年（前期・全期・後期）

2 年（前期・全期・後期）

⑤学習の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

本学の「学位授与の方針」は以下のとおりである。

「国土交通省の定める必修科目及び本学の建学の精神である『人づくり』を実現するための諸科目や自動車工学の基礎となる科目を合わせ履修し、卒業要件単位数を修得した者に学位を与える。」

以下、必要修得単位数等を掲げる。

大学等	学部・研究科等	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
				必修	選択	
徳島工業短期大学	自動車工業学科	2 年	62 単位	54 単位	8 単位	短期大学士
	車体整備工学専攻	1 年	27 単位	25 単位	2 単位	
	車体自動車工学専攻	2 年	63 単位	63 単位	0 単位	

⑥学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学科	所在地	主な交通手段
徳島工業短期大学	板野町	自動車工業学科	〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏 字蓮花谷 100 番地	高德線 板野駅下車
			【キャンパスの概要】面積（土地）72,122 m <sup>2</sup> （建物）10,622 m <sup>2</sup>	
		【課外活動の状況】	【運動施設の概要】 運動場（5,537 m <sup>2</sup> ） 体育館（1,112 m <sup>2</sup> ）	
		ソフトボール部	部員 12 名	四国インカレに出場

サッカー部	部員 6 名	フットサル中心に活動
ゴルフ部	部員 4 名	練習場やコースで練習
テニス部	部員 3 名	付近のテニスコートで練習
スキー部	部員 4 名	スキーシーズンに柵池ツアー実施
自動車部	部員 16 名	夜間走行練習、電動カート大会参加
バドミントン部	部員 6 名	本学体育館で練習
釣り部	部員 9 名	徳島県や香川県の川や池でブラックバス釣り

\*課外活動は平成 23 年度の状況です。

⑦学生納付金に関する情報 ※目次欄の PDF データをご覧ください。

⑧学生支援と奨学金に関する情報

### 1 学生支援

支援内容	組織名	機能
就職支援	進路支援室	就職指導、就職先開拓
進学支援	進路支援室	進学指導
履修支援	教務課	履修相談
生活支援(住居、アルバイト等)	学生課	学生への住居、アルバイト紹介他生活上の諸問題に関すること
	国際親善課	外国人留学生の生活支援に関すること
経済支援	学生課	奨学金に関すること
	会計課	授業料減免、分納に関すること
保健・衛生・メンタルヘルス等	学生課	学生の保健・衛生に関すること
	学生相談室	学生相談に関すること
その他の支援	学生課	各種資格の取得に関すること 課外活動に関すること

### 2 奨学金

平成 24 年度

大学独自の奨学金

種類	内容	要件	申込方法
近藤安次郎入学金免除制度	入学金免除	私立学校または自動車科若しくは自動車コース出身者(各校 1 名)	各学校長の本学規程の推薦書を提出する。
近藤安次郎奨学育英制度	一種: 毎月月末 3 万円を学習奨励金として 8 月及び 3 月を除いて 2 年間支給する。	指定校特別推薦入試合格手続き終了者 学生寮居住者を除く学生	申請書(様式 1)を提出し、定められた日に選考試験を受けるものとする。

	二種：本学設置の学生寮居住者の寮費のうち部屋代（毎月3万円相当）を免除する。	指定校特別推薦入試合格手続き終了者 学生寮居住者	
近藤安次郎女子奨学育英制度	毎月月末3万円を学習奨励金として8月及び3月を除いて2年間支給する。	女子学生 各年度10名以内	入試合格手続き時に申請書を本学に提出し、申請の前後いずれかで本学の実施する面接を受けなければならない。
近藤安次郎奨学金貸与制度	1年前期分の授業料と施設拡充費相当額とし、これに充当する。	各年度5名以内	入試合格手続き時に申請書を本学に提出し、申請書に必要書類を添付して本学に提出する。
			採用された者は、連帯保証人書署名の所定の借用書に必要書類を添付して、採用通知受領後10日以内に本学に提出する。 返還義務あり。
外国留学生国家試験合格後奨学金	授業料10%を限度として支給	国家試験合格後の外国人留学生	手続きなし。
私費外国人留学生奨学金	月額4万8千円を支給する。	経済的理由により修学困難な私費外国人留学生。若干名。	入学時に提出書類等により審査。

上記以外の奨学金

種類	内容	要件	申込方法
日本学生支援機構	第一種：無利子貸与。入学年度、通学形態別に定められた月額か3万円。	特に優れた学生で経済的理由により著しく修学困難な人に貸与する。	入学後、本学で申し込むか、高校在学中に在学している高校で申し込む。
	第二種：利息付貸与。5種類の貸与月額から選択。	第一種よりゆるやかな基準によって選考された人に貸与する。	
あしなが育英会	無利子貸与。一般貸与：4万円。特別貸与：5万円。	保護者が病気や災害、自死などで死亡。またはそれらが原因で後遺障害で働けず、教育費に困っていること。	配布された資料をもとに本人が申し込む。
交通遺児育英会	無利子貸与。月額4万円、5万円、6万円から選択。	保護者等が道路における交通事故で死亡したり、重い後遺障害で働けず、修学が困難であること。	配布された資料をもとに本人が申し込む。

滝川奨学金	月額1万7千円が支給される。	兵庫県出身者であること。	本学より推薦書を提出する。
私費外国人留学生学習奨励費	月額4万8千円が支給される。	成績優秀者。	本学より推薦書を提出する。

### (3) 管理運営の概要

#### [ガバナンス]

ガバナンスとは、「理事長・学長の意志決定やリーダーシップが短期大学の向上・充実に対して適切に発揮されていることを確認すること」である。本学では、理事会が定期的開催され監事も毎回出席して意見を述べている。3月下旬に理事会で承認された事業計画及び中・長期計画を進めるために、理事長・学長及び事務局長を委員とする経営会議を持ち個別の事業について関係者に指示し展開している。

理事長は、副学長として教授会に出席する他、毎月開催される職員会議に出席して理事長講話を通じて当該月の重点項目を明確にしている。学長は、理事会、評議会、経営会議の一員として意見を述べて教育研究の向上・充実を担っている。教授会、職員会議、入学者選抜会議、将来構想検討委員会及びFD研修会などの座長を務め、指導的に会議を誘導している。

#### [自己点検・評価]

平成5年度に自己点検・評価委員会を設置して授業アンケートから着手した。平成21年度に財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受けて適格と判定された。ただし、教育研究向上・改善のための課題として、組織的な取り組みによる研究時間の確保及び教員の事務処理等の兼務の多さを指摘された。

研究については、昨年度の継続として共同研究費予算を設定して共同での研究を促した。事務処理等の業務については、各種委員会の委員や校内分掌の役職を減らすことで負担を軽減した。また平成23年5月には、教員の長期研修派遣制度を作り、職場を離れて研究に専念できる機会を設けた。

#### [情報公開]

本学では、これまで職員には、職員会議で、保護者には保護者会報で前年度の事業概要及び財務情報を公開して来た。また、平成21年財団法人短期大学基準協会（以下「短大基準協会」という。）の第三者評価を受けた「機関別結果」の全文をホームページで公開している。

平成22年12月からは、短期大学が「高い公共性と大きな社会的責任を有している」ことを再認識して、学校教育法施行規則、私立学校法及びその他法令並びに私立短期大学協会の指針、短期大学評価基準に沿う項目を情報公開している。

平成21～22年度自己点検・評価報告書を短大基準協会の新しい審査基準に則り作成し、関連団体・大学などに送付した。

#### [施設設備整備]

**ア 火災等の災害対策：**各教職員は、自室及び実験・実習室の火元責任者として位置づけられ、毎年2回点検表を記入・提出することで防火に関する意識の徹底と点検を実施している。消防設備機器の点検は、毎年2回専門の業者により行い必要に応じ修理・交換している。

**イ 防犯対策：**大学については、機械警備を導入しており、夜間は校内を警備会社が巡回している。学生寮については、契約業者が宿泊勤務を実施している。両施設とも、日中は本学の職員又は掃除等の外部業者が校内を巡回しているので、不審者を発見すれば連絡する体制を採っている。

**ウ コンピュータのセキュリティ対策：**据え置き型のコンピュータについては、電源投入時のパスワード管理、ネットワークアクセスへのパスワード管理を行っている。機器類の盗難対策については建屋の施錠で行っている。

ノートパソコンについては、電源投入時のパスワード管理のほか、盗難にあってもデータが取り出せないようにハードディスクへのパスワードを設定している。

インターネットセキュリティに関しては、ウィルス対策ソフトを導入している。インターネット回線は、固定IPアドレスを利用していないので、外部からの侵入に対しては今のところウィ

ルス対策で十分と考えているが、時期を捉えて光ファイバ回線の導入を行うことになり、その時点でファイアーウォールの設置などセキュリティ対策を強化するつもりである。

**エ 省エネ及び地球環境保全対策：**平成 20 年度から職員会議で毎月の電気量及び水道代などの使用状況を報告している。省エネについては十分に周知し、意識面の改革を引き続き進めたい。実習で使用するガソリン及び灯油については、専用ノートを作り使用者が記帳し、これを庶務課で管理している。また、小さな取組みではあるが、会議等で使用する用紙は、裏面も無駄なく使えるように回収用ボックスを印刷室に設け、再利用を図っている。廃品置場では、廃棄物を鉄、プラスチック、廃油等に分類し、その他の可燃ごみ、不燃ごみについては、別途分類回収するなど環境保護対策に取り組んでいる。今後、ごみの総量を減らす方策をさらに検討すべきと考えている。

**オ 耐震診断及び補強工事について：**本館（1号館）について、平成 22 年度文部科学省の補助を得て耐震補強及び改装工事を終了した。

(4) 上記（「(1)」～「(3)」）以外の特長ある取り組みの概要

#### ①教育力向上の取り組みの概要

##### 【自動車工業学科】

##### 1 教育研究の目的と期待される知識・能力：

「座学（講義）」においては自動車整備に関する諸知識および関連する諸知識を教授すると共に、[人づくり]を目指した宗教学、倫理、キャリアデザイン、コミュニケーション能力等の科目によって教養教育を教授する。また、「実験・実習」によって整備技術を修得させ、学生が自動車整備士国家試験二級レベルに合格することを目的とする。

教員は自動車整備技術に関する研究を主として行い整備技術教育力の向上をはかる。成果は紀要発表および自動車短期大学協会研究発表会で公表する。

##### 2 学習評価と卒業認定：

シラバスに明示した評価基準にしたがって 60 点以上の取得者に単位が与えられる。卒業には、2 年間の在籍と 62 単位取得が必要である。卒業者は、短期大学士の学位を授与される。

授業の出席率は 5 分の 4 以上、実習は全出席が要求される。正規の試験に於いて得点が単位取得条件に満たない場合や、事故や病気等による欠席には学内基準に照らし合わせて補講を考慮する。

##### 3 教育改善・教育研究活動：

ア入学前に入学説明会（ガイダンス・作業服採寸・卒業生ガイダンス・学習質問など）と入学前実力試験（物理・数学）を新入生に行う。入学後、希望者は物理と数学の個人授業を、学生 3 名に教員 1 名がついて受講できる。これによって、忘却した知識、未修得なまま看過した知識・学力を身につけることができる。こ教員と学生の人間的な交流によって、学生は豊富な経験を習得する機会ともなる。

イ宗教学、倫理、コミュニケーション能力等の科目などを通して、豊かな、深みのある社会人となるよう教育をおこなう。宗教学は特定の宗教に偏らず考えることを学ぶ。留学生には、日本語、基礎日本語によって日本語の文法や語彙の知識だけではなく、簡単な自動車工学に関する基礎知識も習得させる。1 年次生は全員参加の体験学習として、夏に研修旅行を行う。ウ各種の特別講習が各種行われている。すなわち、ガス溶接、アーク溶接、高所作業車特別教育、フォークリフト運転技能、小型建設機械、トウオペレータ資格などである（正式名称、略）。

エ EV・HV に研究の力点を置く傾向を強めている。実習車両としての HV を増やした。

オ HV に関する実習等により、全学生が低圧電気取扱業務特別教育を修了できるシステムとした。

カ各クラス2チームの参加で整備大会を行い、整備の熟練度のコンテストを実施し、実習の熟達推進に供ている。

キ第二種電気工事士国家試験に向けて、通年の講義と実習を提供している。

ク四年制大学工学部に編入学する学生のために、数学Ⅳ（フーリエ級数とその応用）を開設した。

#### 【車体整備工学専攻】

1 教育研究の目的と期待される知識・能力：

二級整備士の知識に加えて、板金・塗装技術の習得、関連知識を教授する。車体整備士資格の国家試験の合格を目指す。修了期間は1年。27単位以上を必要とする。

2 特色ある教育研究：

後学期に、カスタムカーを作製する。授業で学んだ技術を作品に仕上げることで、ものづくりのおもしろさを体験させる。

ガラス・コーティングの講習会を行う。

#### 【自動車工学専攻】

1 教育研究の目的と期待される知識・能力：

二級ガソリン自動車整備士および二級ジーゼル自動車整備士の資格を元に、最新の自動車工学や整備技術や整備業界における環境変化に対応できる技術者そして一級整備士を養成するコースである。

2 評価・卒業認定の基準：

評価は、シラバス通り。修了認定は、2年以上在学し63単位以上取得したものに与える。

3 特色ある教育研究：

ア学生一名に一台の新車及びエンジンを使用している。また、HV・EV技術に対応できるよう最新のHVを実習車とする。

イ自動車販売会社における6週間（連続の必要はない）のインターンシップを義務付けている。

ウこの専攻科の在学生に限り実習場使用制限を緩和し、実習・研究の自習を行える環境を定めた。

エ教員の研究活動に学生が参加し、コンバートEVの改修を行い、紀要発表した。

#### 【学科・専攻ともに共通な事項】

教職員の職能開発の特徴：

ア教職員は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）により、また、学内で開催するFD/SD研修会を利用して職能の向上を図っている。

イ教員は、自動車工学に関連する学術団体に加入することを推奨され、一団体について会費を校費負担とし、最新の技術の情報を獲得し教育研究に活用する。

ウ月1回の職員会議は、全ての教職員が一堂に会し、学内の状況の情報共有を行い、教育力・指導力の向上に資している。

エ若年教員には、現状より更に教育研究の能力を身につけるため、2年間職務を離れて他大学において学位取得のため研修する機会を与える。

オ保護者も参観できる公開授業を年1回行い、相互に授業参観し同僚の授業技術等を観察し、自己の授業に取り入れる機会を作っている。参観者からの授業改善提案もなされる。

### 3. 財務の概要

#### ① 学校法人会計について

学校法人の目的は、教育・研究の推進を通じて人材を育成し、研究活動の成果を社会に還元することである。一方企業の目的は利潤獲得であり、学校法人とは大きく異なっている。そのため、企業会



計が損益の状況を重視するのに対して、学校法人会計は、教育・研究活動が円滑に行われているかどうかを重視する。こうした違いにより、学校法人会計は損益を表すという目的はなく、企業会計にはない資金収支計算や永続性を重視した基本金という概念を用いている。

学校法人は、「学校法人会計基準」に則り、会計年度ごとに、資金収支計算書（学校法人の支払い資金のすべての内容と顛末を表す。）、消費収支計算書（企業会計でいう損益計算書のようなもの。）及び貸借対照表（決算日における学校法人の財政状況を表す。）を作成することとなっている。

## ② 財務の概要

- 1 資金収支計算書で見ると、次年度繰越支払資金は、学生数の減による収入減が主因となり、約 1,200 万円の減少となった（平成 22 年度は耐震改修により 7,300 万円の減少）。
- 2 消費収支計算書で見ると、当年度消費収支超過額は約 7,700 万円で、翌年度繰越消費支出超過額は約 17,300 万円となった。

収入では「学生生徒納付金収入」が、学生数の減少（平成 22 年度 145 名から平成 23 年度 141 名）により約 600 万円の減となった。「補助金収入」は、前年度受けた本館耐震改修補助金額分の減少にほぼ留まった。

「基本金組入額」は計画の縮小、修正により約 14,800 万円減少した。

一方支出の面で見ると、「人件費」については、教育職員(常勤、非常勤)の退職や退職金引当繰入の減、また役員報酬を引き続き削減したため、約 1400 万円減少した。「教育研究経費」も約 500 万円増加しているが、主因は耐震改修に伴い購入した教育研究機器の減価償却開始によるところである。「管理経費」は広告費や修繕費の減により、約 400 万円減少した。

- 3 貸借対照表で見ると、主に本館耐震改修後の減価償却開始により「有形固定資産」が減少した。また「流動資産」は約 3,800 万円の減少となっているが、これは平成 22 年度は「未収入金」中に耐震改修補助金が含まれていたため例年以上に大きな金額となっていたことによる。

以下に財務関係の諸表を示すが、資金収支計算書及び消費収支計算書については、平成 23 年度単年度のものと同平成 22・23 年度を対比したものを掲げる。

また最後に監査報告書、事業報告書を掲載する。

- (1) 財産目録 ※目次欄の PDF データをご覧ください。
- (2) 貸借対照表 ※目次欄の PDF データをご覧ください。
- (3) 収支計算書 ※目次欄の PDF データをご覧ください。
  - ①資金収支計算書(平成 23 年度)
  - ②消費収支計算書(平成 23 年度)
  - ③資金収支計算書(平成 22・23 年度対比)
  - ④消費収支計算書(平成 22・23 年度対比)
- (4) 監査報告書 ※目次欄の PDF データをご覧ください。
- (5) 事業報告書 ※目次欄の PDF データをご覧ください。
  - ①法人概要
  - ②事業概要
  - ③財務比率表

注：この公開情報は、平成 24 年度学校基本調査の数字をもとにしているもの、平成 22,23 年度決算・事業報告をもとにしているものを除き、公開内容は平成 24 年 6 月 30 日を基準としています。